

わが市わが町 大磯町

大磯町は神奈川県央の南部に位置し、南は相模湾に面し、北は高麗山、鷹取山等の大磯丘陵地に挟まれた東西に細長い平坦地により形成されています。大磯のイメージは「海」と思われる方が多いのですが、実は、緑豊かな丘陵地が広がっており、町の面積のおよそ3分の1にあたる約500ヘクタールが山林となっています。また、海岸一帯は松林の景観も形成しており古代から「よろぎ（ゆるぎ、こゆるぎ、こよろぎ）の磯」と呼ばれ、万葉集等にも詠まれた景勝地となっています。

明治18年(1885)には、初代陸軍軍医総監を務めた松本順が日本で最初の海水浴場を開設し、この頃から財界人や文化人の邸宅や保養地・避暑地として別荘群が立ち並び、大磯は全国にその名を知られるようになりました。

特に、東海道松並木沿いの旧滄浪閣(伊藤博文邸跡・旧李王家別邸)を中心に、明治期の立憲政治の確立に重要な役割を果たした伊藤博文、大隈重信、陸奥宗光及び西園寺公望に関連する邸宅や別荘などの歴史的建物が現存しており、平成29年には、海側に広がる松林を含む周辺の緑地とともに『明治記念大磯邸園』として整備することが閣議決定されました。

この決定を踏まえ、現在、国、県及び町で整備を進めており、令和2年夏頃には、一部区域の公開を予定しています。



旧滄浪閣(伊藤博文邸跡・旧李王家別邸)

本町の山林は、全体面積の約1割が針葉樹の人工林、残りの9割が広葉樹林等となっています。かつては薪や炭焼きなどに山林が盛んに活用されていましたが、化石燃料が普及すると山の広葉樹林が活用されることはほとんどなくなりました。その結果、現在では大きく成長した広葉樹の立木が農地の日照を阻害し、倒木被害が発生し、山に人が入らなくなったことによってイノシシ等の野生動物のすみかが拡大するなど、山林が農業や生活に支障をきたす存在になってしまっています。

こうした問題を解決するには山林を資源として適切に活用していく必要があると考えられます。しかし、本町では林業が盛んといった地域ではな

く、森林組合も存在しません。

このような中、山林が抱える問題の解決に向け、「自伐型林業」という林業の方式に着目し、山林の持続的な活用と環境保全の方策を検討する「実現可能性調査」を行いました。「自伐型林業」とは、地域住民や山林所有者の自営によって地域の山林を活用する方式で、小規模機械による低コストの施業が一般的です。

調査結果を踏まえ令和元年秋季には、初心者向けの研修会を開催し、チェーンソーの使い方から始め、造林、搬出、作業道開設などの一連作業を学ぶプログラムに、16名の方の参加がありました。



研修会の様子

様々な問題を抱えた山林を改善していくための取組みはまだまだ始まったばかりです。人材育成を始め課題も多くありますが、長期的な視野で取り組み、緑豊かな大磯らしい自然環境の維持・保全を図っていきよう努力してまいります。

(大磯町産業環境部産業観光課)